

めだかの学校だより

平成 18 年 2 月 1 日
第 51 号

学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：浜松市引佐町
東久留女木 472-111
TEL053-545-0381

校長訓話

第五十一校長 山根 圭二

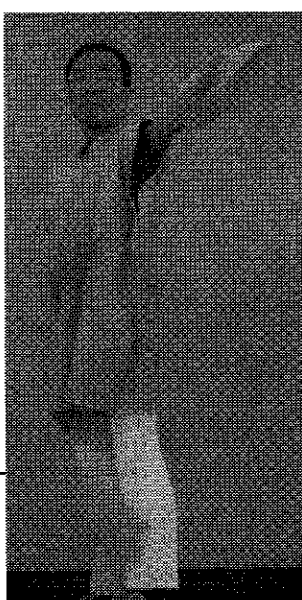
男と女 女と男
地球温暖化・人間社会冷淡化。日本列島断層活動期突入のもと、老若男女と共に、男は劣化弱体化、女は優勢巨人化。

さてさて、メダカのみなさん！メダカの学校で生かされ、泳ぎ回わされていることに感謝致しましょうぞ!!。



皆が先生、みんなが生徒。メダカ女性には美しく優しいし、一方男メダカもパワフルで活動的、例外なし。メダカの学校が各地に誕生していること、ご存知ですよねエ。愛

知泉瀬戸市には昨年5月、81歳のおばあちゃんが所有されていた工場を改装して、工房を兼ねたギャラリーを開設。名前は「めだかの学校」ときた。遠く名古屋市からも通ってくるメダカもあり、約30人の手芸作品が展示されていると新聞が報じています。



また同じく愛知県尾張市の陶芸・ちぎり絵・木工など多彩な趣味の81歳のおばあちゃん。雑誌報道は「メダカ」ちゃんとは書いていませんでしたが、56歳の時から絵画教室へ通い始めたという解説を読んでいくと、この人も「メダカ」の先覚者のお一人と思えました次第です。さて、メダカのみなさん！「め

だかの学校」が、今の時代なぜこんなにももてななのか今一度考えてみましょう。「建学のこころ」を声を出して読んでみましょう。
○有意義するための意志をもっている者は老若男女を問わず、誰でもめだかの資格を保たれること。
○好奇心と遊び心、そして挑戦心が行動につながるのだ。
○しなやかに、まろやかに、そしてしたたかに振る舞うべし。
○そうした行動を通じて、「もう一人の私」「もう一人のあなた」の発掘を目指し、共に学び、共に喜び合うことを享受しよう。

志を持つ者は、老若男女を問わず誰でも入学出来る学校なのです。

そんなこんなで皆さんご存知の「めだかの学校」の校歌、メダカの学校は♪を何かの折にはいつでもどこでも歌いましょう。

そしてもう一つ歌わなければならぬ小唄がありますぞ。ほけます ほけない小唄”です。

授業の最後に全員で合唱を致しましょう。

歌詩はオールメダカさんに後でお渡し致します。指揮も音楽のメダカ姫先生に頼んであります。よくしゃべり、よく飲んでコンディションを作っておいて下さいませ。(自分に対する訓話)

めだかの学校伝言板

——第51回めだかの学校を開校するので出席しなさい。開校日／平成18年3月3日(金)6:20PMより

校長／山根圭二
教頭／鈴木真弓
用務員／古橋正浩
給食係／浜口弘睦・萩田博・古田賢二郎・水野忠義
岡本卓也・大谷香代子・鈴木智香枝・荒木順子
齊藤敏子・水村春江(チーフ)

※今回の給食は「ひなご膳」です。
給食当番の生徒は、午後3時学舎へお集まり下さい。
〈学舎〉静岡県浜松市引佐町東久留女木観音山
観音山みどりの郷キャンプ場
TEL なし

受付／鈴木計芳・鈴木偉代
齋藤昭(後見人)
〈時間割〉～おんなどおとこの楽しいひなまつり～
—データと現実に基づいた女と男の話—
6:50 〈第一部〉
—データと現実に基づいた女と男の
パネルディスカッション—
・レポーター………加藤修一
・コメンテーター……岡本卓也・榊原淑友
伊藤英雄・金子芳美・佐藤律子
・司会進行………鈴木正士
8:00 〈第二部〉
給食をいただきながら班別で討論会
10:30 閉校

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■「遠州三大町並み文化展」へ

昨年十二月の始めに、遠州森町で開かれた「町並みと蔵展」を訪ねた。前の日に伊豆での「蕎麦サロン」で講演をして頂いた近藤備兵メダカやいつもの溝口久メダカなどと帰りに寄った。太田川と平井して秋葉神社に向かう秋葉街道沿いの古い町並みの店舗や民家を利用して、家々の家宝のほか、絵画やクラフト作品などが展示されていて、訪れた人は一軒一軒寄り込んで鑑賞するのである。昔は衣服がかなりリサイクル・リユースされていて、古着が活発に取引されていたようである。森町は、その古着の取引が盛んに行われていたところで、そうした森町らしく、かつて古着商をしていた旧家では、古着市の様子や古着商の繁盛振りを示す資料が展示され、家主による説明も行われていた。また、現代版古着市といえる衣服のフリーマーケットも出展していた。その他、手入れの行き届いた広い日本庭園を眺められる座敷で茶を振る舞う旧家や、先代のコレクションである日本刀や鎧などを展示していた蔵作りの大きな家などもあった。森町名物の「梅衣」や特産の次郎柿の販売に、田邊哲メダカ主宰の「夢街道匠塾」のそば打ちの実演とサーブスも行われていて、森町ならではの催しとなっていた。さらに、残念ながら参加できなかったが、土蔵の中で静岡文化芸術大学の大学院生による「灯り創作ワークショップ」も開かれていた。

森町は、遠州の小京都と呼ばれることもあるように、町に対する住民の誇りが高い町である。袋井市や浅羽町との市町村合併は合意に至らず、独自の道を歩むことになっており、合併して新たな町づくりが始まっている周辺の袋井や磐田、掛川に負けないと、町の人たちが動き出したのである。

村松達雄メダカに案内してもらった日曜日森の町並みは、風花が舞うあいにくの天候であったが、とても初回は思えないほど、多くの人が町並みを行ったり来たりしていた。上がり込んだり覗き込んだりしたところではどこでも、話が弾み、温かいおもてなしを受けた。また、展示や催しの種類も多彩で、森町の歴史の深さと文化の高さに触れることができ、多くの方が行く前に想像していた以上に、出展や催しの数が多く一つひとつの内容も素晴らしいと感じたのではないかとと思われる。

このように古くからの町並みを生かして賑わいと呼び込む「町並み文化展」は、最近各地で行われるようになってきている。遠州地域では、掛川市横須賀で行われていてすでに7回を数える「遠州横須賀ちっちゃな文化展」と昨年4回となった磐田市見付の「見付宿たのしい文化展」がある。「遠州横須賀ちっちゃな文化展」は毎年十月末、「見付宿たのしい文化展」は四月下旬に開かれている。これに森町のこの「町並みと蔵展」が毎年晩秋に開催されるようになれば、季節ごとに地域の特色を生かした文化の催しが楽しめるようになる。大きな美術館がなくとも、著名な芸術品がなくとも十分に文化や芸術を楽しむことができるのである。そして、展示されている作家さんや地域の人々に加えて、訪れた人同士が触れ合い、地域の特産物も味わうことができるのである。これから、それぞれの文化展が、互いに連携したり、切磋琢磨したりしながら「遠州三大町並み文化展」

と呼ばれるように、ますます発展することが期待される。
(なんでもあり農園小作人の松)

■「しずおか未来づくりネットワーク交流会議 in ふじおやま」のお知らせ

静岡県内の地域づくり団体の組織「しずおか未来づくりネットワーク」では、3月11(土)・12(日)の2日間、小山町を会場に交流会議を開催します。11日(土)は小山町健康福祉会館を会場に長田央・小山町長による「交流人口拡大による地域活性化」(仮題)講演、続いて地元小山町の地域づくり団体による事例発表や町内で活動する団体を紹介します。第2部では、各テーマごとの分科会に分かれ、自由な意見交換を行います。終了後には交流会&夜なべ談義を予定。また12日はバスツアー「道の駅ふじおやま」や新装なった「富士スピードウェイ」などの見学を計画しています。興味のある方、参加希望の方は神原幸雄メダカ、または鈴木武史メダカまでご連絡下さい。

■第2回「しずおか町並みゼミ」へのお誘い

昨年、第1回目を蒲原町で開催、今年第2回目は城下町・遠州横須賀の町並みが舞台です。全国的には活性化しつつある「町並みの保存&町づくりのコラボレーション」ですが、伝建に指定されている町並みが一ヶ所もない静岡県では端緒についたばかり、町並みを生かした活動の方法論や保存のノウハウも確立していません。そこで今回は町並みの権威・東大教授の西村幸夫氏をお迎えし、講演会や意見交換を通してその方向性を探ります。また町並みの観歩記や交流会も予定しております。さらに19日(日)には「全国町並み保存連盟」の理事さんにも参加していただき、先進地域の取り組みなどのお話を伺います。

ぜひ、皆さんご参加下さいね!

2月18(土) 10時・観歩記、14時・講演会・まちづくり萬相談、18時・交流会
2月19(日) 10時・まちづくり寄合
談義・まとめ

募集要領&詳細は横須賀倶楽部事務局(大須賀町商工会内)0537-48-2262 または鈴木武史メダカまで。

■第2回遠州森町「町並みと蔵展」を開催

予想以上の大盛況だった町並展昨年12月3日(土)・4日(日)の2日間、森町の中心市街地を中心として「町並みと蔵展」を開催させていただきました。出展者や町内のみならず、それぞれ「森町らしさ」を演出してもらい、予想以上のたくさんの人々に「町並みと蔵」を見てもらうことができました。お客様から「森の町は面白い、また来てみたい」の声を頂き、主催者の一人としてこれ以上の喜びはありません。

春の森町テーマは「舞臺とさくら」4月1日(土)・2日(日)

今回は「町並みや蔵」はもちろんですが、森の町の春をみな様を知って頂きたい、1400年の歴史を誇る天宮神社の12段舞臺と太田川に咲くさくらを一緒にお楽しみいただけたらと考えています。桜の季節に予想以上のたくさんの方々に「町並みと蔵」を見てもらうことが出来ました。皆様のお出掛けと感想、ご意見をお待ち申し上げております。感謝
(遠州木三の里連 代表 神原淑友)

◇人・ひと・ヒト…だより

(年賀状と心境お知らせから、ちよつとだけ…) ○磐田市社山の市川祐一メダカ。「ふるさと社山」にて、天・地・人：たくさんの方縁。おかげさまに感謝しつつ…こつこつと健康で働こう!と思えます。高峰よ

り田舎の山野がいい。

○浜松市(旧浜北市)の松本泰榮(よし
たか)メダカ。うれしい、楽しい、おも
しろい、こんな年で行きたいね、だって。

○愛知県東栄町の伊藤静男・公子夫婦メ
ダカ。不真面目なメダカ生で申し訳なし、
今しばらく「容赦を。(待つてるヨ)」

○浜松市の中村明男メダカ。若い仲間と
音楽の樹拡大に一生懸命してまーす。

○浜松市細江町の西原弘メダカ。娘さん
が新風舎から本を出した。読んでみて。

題名「翔破」(しょうは) 美南亜希子著
リアルな心情描写で描き切ったサスペン
スですぞ。

○掛川市(旧大須賀町)の鳥山剛メダカ。
遠州横須賀倶楽部の家老。役場を退職し
て、いちご園「赤ずきんちゃん」で大忙
し。欠席続きでゴメンなさい、だって。

○浜松市の佐藤律子メダカ。バラさんお
元氣ですか? 沢山さぼってしまいました。
今年元氣に出席します、と。(51回の
めだかはコメントイターですぞ)

○飯田市で先駆的村おこし活動をしてい
る風土舎の長谷部三弘さん。今年こそは
「めだかの学校」へ入学したいと思いま
す、と。長谷部さんは静岡県で開催され
た地域づくり全国研修交流大会での「め
だかの学校」で先生に。それ以来のおつ
きあい。

○牧之原市(旧相良町)の原崎小百合メ
ダカ。中学校へ週2日、相談員として出
向中。今年でやめる。やめないと身体が
もたない。イタタタ。..。それならめだか
の学校行けるかも。

○浜松市の鈴木偉代メダカ。昨年は「環
境道場師範養成講座」の受講と「めだか
の学校」入校。多くの方々との出会い、
本当によかった、と。(原崎小百合、榊原
幸雄、森下芳則の3メダカは「環境道場
師範養成講座」の卒業生、原崎小百合は
優等生。榊原幸雄メダカは劣等生でし
た。)

○千葉県松戸市の滝川徹元メダカ。毎日

新聞本社の編集委員。仲間と「つながる
いのち」(山と溪谷社)を出版したんだっ
て。

○豊橋の金子芳美メダカ。忙しい日々を
送っています。美しい日々になるのはい
つだろうか? (なーに、すぐなれます。51
回のめだかはコメントイター。女性の立
場でどんどん発言して! 美しさは内から
出てくるものです。ハイ。)

○掛川市の萩田博メダカ。昨年は本当に
走った。今年も走るヨーと、4月30日
から5月6日まで北海道小樽から宗谷
岬まで走ります。玄米正食始めて10年、
心技体充実です。

○湖西市の寺田悦子メダカ。昨年4月か
ら金曜日の愛気道の稽古が増えて「めだ
かの学校」欠席しています。今年は何と
かして出席したい、と。

○浜松市の岡田清多良メダカ。ガンを共
にしながら「過去が映っている今、未
来のつぼみで一杯の今」。いつも元氣を
ありがとう! ーと。

○浜松市の溝口久メダカ。浜名湖えんた
めの顧問として、浜松・浜名湖を舞台に
した映画「天まであがれ!」にスポン
サー集め、ロケ応援に係っている。極め
つけは鶴見町の自宅を主人公宅に提供、
1月23、24日にロケが行われたんだっ
て。県庁の推進室の本業も消耗しながら
がんばっています。

○島田市の池谷俊裕メダカ。「めだかの学
校島田分校」の開校に向けての一年にし
たい、と。黄瀬川初枝メダカから元氣なメ
ダカ生らがいるから設立できるかも。楽
しみです。

○浜松市の加藤修一メダカ。今年もブル
ドックで行きたいね、だって。英語で
B2は上向き、引張るの意。頭の上
のコブ(記念誌)が重くてねえと、ブル
ドックのイラストで。

○湖西市の佐原剛メダカ。「昨年11月末
日を以ってハム、ソーセージの生産販売
中止し、くるくるウインナーを主にイベ

ント用の生産販売を身軽な身に変身!」
と。いろいろなイベントに参加するので
声をかけて!

○浜松市雄踏町の藤田潤吉メダカ。昨年、
藤田久枝メダカ、八木正子メダカ、佐藤
律子メダカを誘って「浜松・花蝶ちゃん」
というチンドン屋グループを立ち上げま
した。音楽のほかに手話体操、手品など
にも挑戦しています。結婚披露宴では耳
の不自由な方のために手話も。皆さんの
拍手が大きな励みです、と。

○今年もたくさん年賀状をいただきま
した。その中で涙が出るほどうれしかっ
た年賀状です。尊敬する坂村真民さんの
詩を贈ります。

念ずれば花ひらく 苦しいとき 母が
いつも口ずさんでいた そうして その
たび、わたしの花が、不思議と ひとつ
ひとつ ひらいていった。

印刷されたものに字は躍っているが自
筆で「ごぶさたばかりでごめんなさい。
来年は必ずメダカの学校へ出ます。」と。
病を得て長らくリハビリを続けている。
言い出しつべの一人で「建学の精神」を
作った浜松市の武井紀雄メダカからです。
待っています。

もつともつと伝えたい。でも紙面の都合
で今日はこれまで。ごめんね。

計報
富士市の佐野玲子メダカ闘病五年、つ
いに力尽きる。

1月17日午前6時45分、夫君久氏に
見取られながら60歳の生涯を閉じまし
た。

平成13年6月のメダカに初登校し、
「メダカの人ってみんな青春? これから
は私だつて頑張るぞ!」と張り切った
直後9月に肺癌を宣告され左肺を三分
の二切除。1年で完治と言われるまで回

復したが、15年10月再発、全身転移余
命半年を宣告され以降「絶対治つてや
る!」と真正面から病に対峙、HPにも
公開し全国展開闘病に励むも及ばず。1
月16日の昼「私余り長くないみたい」の
メールが最後の連絡になってしまいました。
た。

闘病生活に活を期待し、43回の開校日
には先生として登場の予定だったが体調
悪化で「ガンと戦う佐野玲子」の原稿を
バラさんが代読の応援もとかなかった
のは残念でした。

1月21日の葬儀には榊原幸雄メダカ
と参列しました。生前の活躍が偲ばれる
ように大勢の方がお別れに見えられてお
りました。

ご冥福をお祈りいたします。
(後見人 伊藤英雄メダカ)

■記念誌発行します!
平成15年以降に入校した新入生は
「私とめだかの学校」と題して三〇〇
字前後で提出することにー
まぼろしとなった「10年誌」。開校
50回記念と10年プラス3年合併号と
して発行することになりました。平成
15年以降に入校した生徒の皆さんに
「私とめだかの学校」と題して三〇〇
字前後で書いてもらうことになりました。
締切は2月28日厳守で、
事務局あてにお送りください。記念号
の内容については、第50号に掲載し
ています。「参照ください。また14年
以前に入校で、提出していない生徒も
提出してください。

提出済み新入生 土屋誠一
◎記念誌発行予定 6月1日
(記念誌発行実行委員・委員長
加藤修一)

☆「大好き浜川」等の法人認証
 浜松市引佐町浜川の任意団体「浜川森林総合利用組合」(組合長・伊藤茂男メダカ)が特定非営利団体(501C)「大好き浜川」として県の認証を受け、十二月二十六日に登録を済ませた。この組合「てんてんゴー浜川」を運営し、森林体験やキャンプ場などの事業を行いながら「五平餅」や「サツト」などの食べ物をひっさげて各地のイベントに出掛け活躍。初代理事長のアイディアマンの伊藤茂男メダカ、豊かな自然や「寺野のひよんどり」など伝統芸能を残しながら、少子高齢化や過疎化が深刻となっている同地区を、どう盛り上げていくか、期待されているところ。(エツ、三月いっぱいまで退任?そんなア)。メダカの学校生の伊藤八右メダカ・鈴木計芳メダカも大きく関わっている。三月十八日・四月五日まで「ひな祭り展」を開く。三月二十五日には夕方六時から夜中まで、陶芸家を交えて野焼きを行う。

「集まれ! 浜川大好きな人会員になって!!」。会員を募集している。問い合わせは053・545・0452まで。

☆浜松市根堅(旧浜北市)の奥宮教生メダカ主宰する「一閃五感の会」が二月二十六日に二百回を迎える。

毎月一回、各分野で活躍する人を招き、体験談や人生観を聞きながら自己啓発や人脈づくりをしている。二百回は記念月例会として二月二十六日午後二時から浜北文化センターとなりの「森岡の家」で本谷美加子さんのオカリナ演奏と「静岡理工科大学教授の志村史夫さんの講演がある。講師を囲んでの食事会も浜北プラザホテルであります。

こちらは書籍のお知らせです。「いくつになっても、どんなに偉くなってもどうに敵わないお母さん」。親を考える会代表の近藤昌平さんが編集した「愛する母への感謝状」あらためていま母を想うIV「かんき出版発行に各界の有名人と一緒に奥宮信男名で奥宮メダカの一文も掲載されています。二百回記念講演会と書籍についてのお問い合わせは053・583・0628

◆事務局だより

寒中お見舞い申し上げます。
 新しい年はいかがだったでしょうか? エツ、今ごろ新年? 鬼が笑ってるって? 今日節分。笑って「鬼は内、福は内」賑やかなほうがいい。
 今年はいいこといっぱいありそう。暮れにはリンゴやミカン、お米や野菜。石野省三メダカからは年越し手打ちそばまで届いて。明けて1月3日には、松本芳廣メダカと溝口久メダカが、伊藤八右メダカ演じる「寺野のひよんどり」に行く途中、初春の手打ちそばを持って寄ってくれた。いやア、うまかった。至福のひととき。翌日には水島加寿代メダカと照井易子メダカ。なんと1月9日の成人の日には、「ウツ」ピポピポ! 救急車体験プレゼントと言った具合。65歳なのにねえ。「ちらはちよっときつかったけど、初て昨年12月2日の開校50回の「めだかの学校」。山から降りて町の中で、会場は浜松市街のサウラプラザの宴会場。はじめ前に鈴木正子メダカから「バラさんに」と大きな花束をいただいた。気分は結婚式。「50回記念でもパーティじゃなくめだからしく」と、皆さんから提出していただいたテーマの中から「めだかの学校の魅力とは...」(伊藤英雄メダカ)「初登校日の印象は...」(松本泰榮メダカ)「遠足にも行きたいね」(鈴木武史メダカ)の3つを決め、8つのテーマに分かれて討論?することに。結婚式の司会をやってみよう」と石野教頭。渡辺三ツ子校長の着物姿も美しい。洪滞などで開会が少し遅れたが、渡辺校長、石野教頭、徳松兼弘用務員代行の息もピッタリ。いつものように予鈴・校歌斉唱・新入生紹介・建学の精神斉唱・開校50周年の経緯説明・3つの提案者3名が説明。「榊原さん、花束」「あ、50回の校長にね」「違うわよ、榊原さんに」「エツ、オレに?」「いつもお世話になってるから、みんなから!」と、句坂玲子メダカのミニバラの花束。もう一つは給食チーフの渡辺三ツ子メダカに。

いよいよ給食の時間。中華料理のバイキング。それぞれお皿に盛り盛りに。テーブルでは「魅力つてよく分かんないところがあるかなア」「変な人の集まりだと思っただけ」「等々言いたい放題。」「まとめると「もそろそろ」にまさか結果は「私語、飲食すべて禁止の第51回3役発表。校長・山根圭二、教頭・鈴木真弓、用務員は「50回にできないかったのでもう一度やらせて」の古橋正浩。ユニークな山根校長。はて何がとびだすか?。3役の引継ぎ、給食当番も決まって。いつものように大きな輪をつくって。午後の9時15分開校となる。

第51回の「めだかの学校」の職員会議を12月21日豊岡元氣村「味里」で開く。さあ、テーマは?。「3月3日はひなまつりだから、おんなを斬る」と加藤修メダカ。「なに言ってるの、女性の方が強いんだから」とすぐに反論。議論もあつちへとび、こつちへとび。結局決まったのは「楽しいひなまつり男と女のワイドショー」。レポート岡本卓也、コメントイター榊原淑友、司会進行鈴木正士だけ。「これじゃムリだ」と1月18日に集まることに。

第2回の職員会議、いつものように豊岡村「味里」で。先ずは便りは、第50回の記念特集も合わせて8頁建に決定。さて本題の51回のテーマのつづき。テーマは「おとことおんなのひなまつり」テーマと現実に基づいた女と男の話。レポートイター加藤修一(報告15分)。コメントイター岡本卓也、榊原淑友、伊藤英雄、金子芳美、佐藤律子。(女性のほうが少ない?これでもいい)司会進行・鈴木正士。二部制で決まる。少子化、男女共同参画:世の中は男と女。チャンチャンバラバラ。誰です、恐ろしい!「なんて言うのね」「山根校長、女性を先にしていいですね」「諾!」

■もはや常識のお詫びと御礼
 「いつも今回こそは」と思うのですが、成人の日の救急車のプレゼント以降、下

を向いて原稿を書くことが難しく、ボツボツが一杯。夜はダメ! 毎回便りと一緒に同封させていただいた一筆メッセージ、今回はごめんね。そんな中お手伝いいただいた松田不秋メダカ、鈴木武史メダカ、石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、服部守孝メダカ、溝口久メダカ、牧野久子メダカ、照井易子メダカ、エヌビーネットの伊藤多恵子さん、ご心配とご協力、感謝です。ありがとうございました。

◆第十三期の「めだかの学校」の継続手続きをしています。
 第十三期は平成17年9月1日から平成18年8月31日までです。入学希望の方がいましたらご連絡下さい。本人に資料と申込書をお送りします。なお、未継続生は自動退学となります。再入学は随時受け付けています
 (事務局・榊原幸雄メダカ)

◆めだかのたよりの原稿を! 情報ください。地域のイベント、あなたの活動を! 待ってます。次回発行日は5月1日です。4月20日までに郵便かFAXで。事務局(FAX 053・545・0381)、メールの方は、照井易子あて Eメール/teru@net.co.jp メール送信の方は、割付の関係もありますので、事務局に「一報を!」よろしく願います。

めだかの学校事務局
 〒431-2531
 静岡県浜松市引佐町東久留女木472-1111
 「リンデンバウム」内 榊原幸雄
 ※学舎「みどりの郷」は何もありません。連絡・お問い合わせは「事務局」まで。